

H20年度総合評価(福祉課・高齢福祉課所管施設)				
施設名	総合福祉センター	高齢者能力開発研修センター	多容荘	サンホーム滝呂
指定管理者名	(福)社会福祉協議会	(社)シルバー人材センター	(福)美濃陶生苑	(福)社会福祉協議会
指定期間	5年(H18/4/1～H23/3/31)	4年(H18/4/1～H22/3/31)	5年(H17/4/1～H22/3/31)	5年(H18/4/1～H23/3/31)
設置目的	児童、老人、障がい者、母子家庭等に対して各種の福祉サービスを提供するとともに、市民の福祉活動を助長し、市民福祉の増進を図るための施設。	高齢者に就業の機会を提供するとともに、高齢者の生きがい活動を推進するための施設。	養護老人ホーム	児童、老人等に対して各種の福祉サービスを提供するとともに市民の福祉活動を助長し、福祉の増進を図るための施設。
報告書類等の提出状況	良好	良好	良好	良好
運営・利用状況	利用状況	良好	良好	良好
	市事業の実施	良好	良好	良好
	自主事業	良好	良好	良好
施設管理状況	施設管理	良好	良好	良好
	備品管理	良好	良好	良好
	その他管理	良好	良好	良好
収支状況(円)	総収入	116,940,334	2,596,000	95,074,494
	内利用料金収入	-	-	-
	内指定管理料	112,520,000	2,596,000	92,726,136
	支出	100,827,754	2,492,860	85,570,848
	収支	16,112,580	103,140	9,503,646
市民利用者の声の反映	良好	良好	良好	良好
全体的評価	協定書に基づき、事業を適正に執行している。提出書類についても期限を遵守している。	協定書に基づき、事業を適正に執行している。	協定書に基づき、事業を適正に執行している。	協定書に基づき、事業を適正に執行している。 地域の人材をうまく取入れながら事業展開している。また、個々の相談も他機関と連携し丁寧に対応されている。 自主事業として障がい児サロンを実施しており、評価できる。
利用人数・前年度比増減率	老人福祉センター：53,144人 (16.2%増) 障害者福祉センター：4,922人 (8.7%増) 児童センター：51,462人 (2.2%増) 母子福祉センター：5,767人 (0.3%減) 会議室：42,052人 (11.3%減)	4,414人(相談者等を含む。) (前年度比12.7%増)	利用人数：33名 (平成20年度末時点) 平成19年度末時点：34人	利用人数 老人センター：26,094人 (前年度比1.8%増) 児童センター：32,844人 (前年度比4.5%減)
増減の理由	ほとんどのセンターで利用者が増加した。児童センターについては中高生スペースが定着し利用者が増えた。会議室の使用が減少した要因として、各センターの事業で使用したことにより他の利用が減少したものと推測する。	自主事業としてパソコン講座の開催回数を増加したことによると思われる。	とくになし。	各種教室の充実が図られたことにより、老人センターの利用率が増加。

H20年度総合評価(福祉課・高齢福祉課所管施設)

施設名	ふれあいセンター姫	かさはら福祉センター		
指定管理者名	(福)社会福祉協議会	(福)社会福祉協議会		
指定期間	5年(H18/4/1～H23/3/31)	3年(H20/4/1～H23/3/31)		
設置目的	児童、老人等に対して各種の福祉サービスを提供するとともに市民の福祉活動を助長し、福祉の増進を図るための施設。	老人、障がい者等に対して各種の福祉サービスを提供するとともに、市民の福祉活動を助長し、市民福祉の増進を図るための施設。		
報告書類等の提出状況	良好	良好		
運営・利用状況	利用状況	良好		
	市事業の実施	良好		
	自主事業	良好	—	
施設管理状況	施設管理	良好	良好	
	備品管理	良好	良好	
	その他管理	良好	良好	
収支状況(円)	総収入	26,061,046	25,089,000	
	内利用料金収入	1,177,950	—	
	内指定管理料	24,880,000	25,089,000	
	支出	30,965,071	24,388,833	
	収支	-4,904,025	700,167	
市民利用者の声の反映	良好	良好		
全体的評価	協定書に基づき、事業を適正に実施している。 休館日を月曜日から日曜日に変更し平日の子どもの安全な居場所を提供している。	協定書に基づき適正に管理運営されている。		
利用人数・前年度比増減率	利用人数 老人センター：9,872人 (前年度比14.2%増) 児童センター：33,356人 (前年度比11.2%減)	延べ12,961人 (前年度比32.6%増)		
増減の理由	老人センターの利用増については、60歳代の個人利用と新しい教室が増えたことによる。 児童センターの利用減については、子どもの数の減少に伴う乳幼児クラブ参加者の減少、小学生クラブ開催曜日変更による参加者の減少、児童館まつりとふれあいセンター姫まつりの統一による減少などによるものと思われる。	笠原地域社協の活動が本格化しており、活動場所として、当センターで講座、教室等の開催を実施したことや、ビリヤード台を増設したことにより利用者が増加したことによる利用者増と思われる。		